

小豆播種時期間近

週間天気予報では、7月に入り、晴天が続く予報でしたが、台風7号の影響で雨続きの日に激変しました。黒大豆は、土よせを7月3日に都合よく完了していただきました。次は、小豆の播種です。例年、3反ぐらいを作付けしておりましたが、毎年、京丹波ほたるの里の「小倉大納言」は、大粒で味が良く、お客様に人気があり、今年は、2反ほど増やし、5反を作付け計画しました。しかし、雨続きで心配しております。小豆の播種条件は、圃場が乾燥しすぎていても発芽しますが、湿気田では発芽しないのが特徴です。7月10日～7月13日の間に播種する計画です。どうか好天が来ますようにと祈るばかりです。とりあえず、圃場の水抜きを徹底的に実施すること、その次に草対策、肥料は、その次と考えております。肥料が多ければつるボケします。(小豆はつるがないのですが、つるが出る場合があります。)播種時期が遅れると収穫時期が遅れ、霜にあいます。霜にあえば収穫量は、激減します。黒大豆と並行しての作付け、いろいろと会員様には、出役をお願いしますが、よろしくお願い申し上げます。

シカの害治まる

コシヒカリの植付時期には、鹿は里には下りてきません。しかし、晩生の時期になると鹿が新芽をかじります。早生のコシヒカリ、晩生の酒米「京の輝き」WCS資料稲「たちすずか」を同一網の中で植えています。早生のコシヒカリは、もうすでに稲が固くなっていて鹿は相手にしません。鹿は、晩生の品種を集中して荒らします。WCS飼料稲「たちすずか」は、相当鹿の被害を受けました。電柵と鹿網を張り巡らしているのですが、どこからともなく進入してきて荒らします。深夜に見回りをし、爆竹を鳴らし、鹿を追い払う。半月以上も続いています。鹿の進入口をやっと探し当てました。対策をし、最近、深夜に鹿の進入を見ないようにになりました。稲も良くなってきております。もう少し、見張りを続けて見ようと思っております。

黒大豆の白絹病

黒大豆には、草対策の他に、害虫と病気対策が必要です。害虫には、ダニ類、サヤムシガ類、ダイズサヤタマバエ、ヨトウムシ類、ウコンノメイガ、ネキリムシ類、マメシロガ、メイガ類、フタスジヒメムシ、カメムシ類、アブラムシ類。病気には、べと病、黒根腐病、炭そ病、さび病、白絹病、葉焼病、紫斑病、茎疫病等があります。昨年は、白絹病に感染し、収量が激減しました。白絹病は、多量の未熟な有機物を施用すると発生します。白色の絹糸状菌糸が地際部の茎の周辺を取り巻き、その後、褐変の小粒菌核が形成されます。対策として、連作を避ける。除草する。湛水状態にする。(輪作で水稻の作付け) 当地域の圃場は、湿田が多く、黒豆に適している圃場は少ないため、ある程度の連作は避けられない。今年は元肥として、苦土石灰を多めに入れました。除草にも気を使っております。今後、京都府南丹農業改良普及センター様、JA様と相談し、早めに対策をして行こうと思っております。

美しいふるさとをみんなの力で守っていこう！